

宗 像

平成十六年 閏年申 新年挨拶



宗像 大社
宮司 神 島 定

輝かしい平成十六年の初春を迎え、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰併せて氏子崇敬者皆様方の益々の御繁栄と御健勝をお祈り申し上げます。

平素から皆様方の真心からなる御奉賛・御支援を賜り、お蔭をもちまして昨年も当大社の諸祭儀及び諸行事を滞りなく順調に執り行うことができました。ここに深く感謝し厚く御礼申し上げます。

願ひますと昨年は世界各地で異常気象がみられ、ヨーロッパでは猛暑、我が国では大きな被害を受けた数年前と同様の冷夏となりました。当宗像地方でも夏場の気温が上がり、当大社御神田の秋の収穫も若干影響を受けましたが、幸いにも年中祭事は確保することができました。秋からは天候も回復し、本殿大注連繩をはじめ境内諸社の注連繩奉製に用いる藁は色鮮やかな

1月祭事暦

- 1月1日 元旦祭
午前7時 総社地主祭
午前9時 総社祭
(総社祭に引き続き) 高宮地主祭
" 高宮祭・第三宮祭
" 第二宮・第三宮祭
" 末社祭
- 1月2日 新年二日祭
- 1月3日 新年三日祭
午前9時 宗像護国神社
午前10時 新年祭
- 1月10日 恵比須神社祭
- 1月13日 献米奉告祭
- 1月15日 月次祭並成人祭
午前10時 高宮祭
午前11時 第二宮・第三宮祭
午後11時 総社・成人祭

ものになり、天地の神々に深く感謝しております。

また平成十五年四月一日、宗像市・玄海町が合併し、宗像市の宗像大社となりました。社内では四月十五日付で太田宮司現職が退任され、同月十六日付で名譽宮司として神社本庁より宗像大社宮司を拜命致しました。その後五月十五日付で高向権宮司、六月一日付で葦津瀬直、七月一日付で伊藤瀬直と続々人事異動が行われ、六月二十七日には地元氏の皆様方を始め、各界各層から三百余名の御列席を賜り就任披露を開催、新体制での船出を致しました。

七月一日からは当大社の神宝館を会場とし、地元有志で結成される実行委員会主催による「沖ノ島物語『海の正倉院』沖ノ島大國宝展」を開催。昨年から盛り上りの気運がある「沖ノ島を中心とした宗像地域を複合世界遺産に」という大目標に向け、宗像市民あげて九月十五日まで開催されました。当初開期中の来館者の目標を二万人としましたが、閉幕時には三、六三五人という予想をはるかに上回る皆様に訪れていただき、注目の高さを窺い知ることができました。

十一月一日に、この社報「宗像」を一新し、カラーでコンパクトになり今日まで温かい御支援の声を数々お寄せいただいております。

同月一日〜二十三日まで開催された「第三十三回西日本菊花大会」では、昨年も三〇〇鉢の菊が出品され、菊愛好家の御努力により冷夏の影響を感じさせない、美事な出来栄の菊花が展示されました。地元玄海小学校からは、一昨年の五・六年生に加え昨年は三・四年生の作品も加わり、メッセジカードのついた可愛らしい菊を出品いただき、多くの参拝者の目を惹きつけてくれました。

境内では玄海観光協会による出店もあり、多くの皆様に神苑でのゆつたりとしたひとときをお過ごしいただくと共に、夜間は境内のイルミネーションによる演出が同協会によつて行われ、夜菊を楽しむ方も多くみられました。

現在、世界中にグローバル化の波は押し寄せ、民族・宗教・習慣の違いにより世界中で紛争が勃発、特にアフガニスタン・イラク情勢は混乱を極めております。今後一日も早くこれらの諸問題が速やかに解決するとともに、低迷を続けている日本経済が不況の波から脱却しますようお願いいたします。

氏子崇敬者の皆様には、宗像大神の御神徳を戴かれ今年が善い年となりますよう祈念申し上げて新春の御挨拶と致します。

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成十六年 元旦

宗像大社職員										宗像大社責任役員会									
名譽宮司	宮司	権宮司	権宜	權瀬直	出仕	参与	学芸員	巫女	巫女見習	代表役員	神島	出光	大野	山下	山田	麻生	出光	田中	清水
義父	大田	神島	高向	堤	藤田	飯田	重田	深田	河東	神島	出光	大野	山下	山田	麻生	出光	田中	清水	寺本
守	可愛	正秀	正宏	幹之	直之	明宏	清寿	美幸	京子	定	昭介	茂	寛彦	豊	浩二	忍	清	清	清
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊
菅	弘	仁	光	康	和	俊	和	忠	由香	久保	道	昭生	千	昭正	政	豊	豊	豊	豊

新責任役員三名就任

桑野 直迪氏(75歳)津屋崎町



占部貞太郎氏の御退任に伴い就任。
桑野氏は昭和三年三月一日生まれ。旧制宗像中学校を卒業後、九州大学附属医学専門部へ進み医学の道を志された。卒業後は大学に残り更なる研鑽をつまれ、その後郷里津屋崎ホーム病院々長として地域医療に尽くされることも、毎日新聞西部本社産業医を歴任。現在は宗像医師会介護老人保健施設施設長を務められている。また週一回は必ずゴルフに行かれるゴルフ通で、(財)西日本クリン研究所会長、九州ゴルフ連盟グリーン委員会委員長などゴルフ関係の役職も多く、ゴルフを愛する先生である。

杉田 恵次氏(66歳)大島村



河野幸人氏の御退任に伴い就任。
杉田氏は、昭和十二年十二月九日生まれ。若い頃は御苦労をされ、大島中学校卒業後、経済的理由から一旦漁業に従事されるも、漁協役員と働きながら再び学業の道へ進み、修猷館高校の通信制を苦学の末、二十八歳の時に卒業された。その間妻子を養いながらであったという。卒業後も役場で「教育委員会以外は全て廻つたと御自身がおっしゃるよう大島のために御尽力され、その間「コミ問題」大島牧場、水道などの諸問題解決に奔走された。平成五年からは村長に就任され、二期半は務められた。

松井 参伍氏(68歳)福岡町



的場重郎氏の御退任に伴い就任。
松井氏は昭和十年三月四日生まれ。宗像高校を卒業後、福岡学芸大(現II福岡教育大)へ進み教師の道を志される。卒業後は主に中学校教師として教壇にたられ、教師生活は四十年に亘る。音楽にも精通、吹奏楽部の顧問を永年勤められ、九州吹奏楽連盟会長、第四十五回とびうめ国体では音楽部会長も務められた。赴任校は宗像市郡内を中心に勤務され、日の里中福岡中では校長を務められた。退職後は福岡町の教育長として培われた実績、実力を発揮されると共に当大社の氏子会評議員も永年お勤めいただいた。

この度、当大社責任役員の内宗像地区(大島村、津屋崎町、福岡町)の新役員が就任されましたので、ここに御紹介致します。また、旧役員の方野幸人様、占部貞太郎様、的場重郎様に厚く御礼申し上げます。

新年を迎えるにあたり 御本殿大注連縄を新調

新年を迎えるにあたり御本殿・第一宮・第三宮の大注連縄の取り替えが行われた。注連縄奉製作業はまず「藁すくり」から始められる。十月初旬に刈取った稲を懸稲(あぶら)懸けにして乾燥させ、十一月初旬に脱穀した後地元の総代、協力会総出で、一握の束約五百本程作り大島へ送った。

大島では十一月下旬沖・中両宮奉賛会・翼賛会漁師が中心の御奉仕により、時化の時を見計らい藁を綯った。注連縄は中央部分がかなり太く、二本の束を縫り合わせる作業は難しく、長年の経

験と試行錯誤により三十余年受け継がれている。

十二月七日、完成した大注連縄を大島から辺津宮へ運び、大島の沖・中両宮奉賛会・翼賛会、田島の総代、協力会約三十名が御奉仕し、昼前には辺津宮拝殿・第二宮・第三宮へ真新しい大注連縄が無事に掛けられた。

作業後には直会が行われ、大島は漁業従事者中心、田島は農業従事者中心と、いずれも神道との縁も深く、日本文化の礎をなす生業に携わっている為か話も弾み、終始和やかな雰囲気のうち終了した。

この奉製作業では、近年稲作の機械



謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社

取締役社長 古賀 喜之
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4丁目8番28号
電話(092)761-3331

トヨタカローラ福岡株式会社

代表取締役社長 畝地 重幸
〒810-0072 福岡市中央区長浜2丁目1番5号
電話(092)712-7111

ネットトヨタ北九州株式会社

取締役社長 卜部典昌
〒806-0041 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号
電話(093)642-2111

福岡トヨペット株式会社

取締役社長 瀧山 勝久
〒812-0008 福岡市博多区東光1丁目6番13号
電話(092)411-1121

トヨタカローラ博多株式会社

取締役社長 久恒 兼孝
〒812-0042 福岡市博多区豊2丁目3番50号
電話(092)441-2111

トヨタビスタ北九州株式会社

取締役社長 卜部典昌
〒805-0068 北九州市八幡東区桃園2丁目1番1号
電話(093)662-8400



師走十四日(旦)、八百年の伝統を持つ「古式祭」が斎行された。

この神事は当大社御神前で行われる祭典と、清明殿で行われる「御座」の二つで構成され、神饌(御供え物)は神職だけでなく地元宗像市田島・江口区民、

古式祭

化により次第に「藁」の入手が困難になっていたが、平成八年初夏に当大社御神田での稲作が復活、秋には神饌米の収穫を得、以来不足がみだつた藁の心配もなくなっている。

この新調された大注連縄の特色は、藁がバラけないようにと漁師のアイディアで、ブリ漁に使う透明のテグスが等間隔で美しく巻かれている。初詣で御参拝の際は、農家と漁師の共同で奉製された当大社の大注連縄もご覧いただきたい。



一方、清明殿入口には午前六時から売り出される「御座券」をもとめ、午前五時頃から参拝者の列が出来た。御座一番座は祭典後の午前六時三〇分から始まり、参列者は先程の祭典で供えられた特殊神饌と同じものを用いた、平

地元総代等が一緒になって調製し、御座は田島区内八班が毎年交代で奉仕する今年(はまご)は本村班という宗像地方独自の神事である。

祭典はまだ暗闇午前六時、前日から参籠(まゐり)神社に泊まり世俗との関わりを断つこととした神島宮司以下神職が奉仕し、宗像市田島・江口区長、御座の当番班々長、地元総代が参列し斎行された。

御神前には、ミカンの原種である「九年母(ねんぼ)、同市の浜にこの時期しか打ち上げられない「ゲバサモ」と呼ばれる海藻など、この祭典だけに調製された特殊神饌が供えられた。

同日午前十時からは、鎮火祭が斎行された。

祭典の中では、古式ゆかしく火打石で忌火を起こし、瓢(ひょう)で水を汲み火に注ぎ忌火を鎮め、その上に赤土をかけ川菜で覆う「鎮火の儀」が行われた。

迦具土神の荒びを鎮め、その災いを受けるとの無いようにと、火災の絶無と消防関係者の安全を祈り、宗像市・郡内の消防関係者をはじめ、県議会議員、市町村長、警察関係者、氏子代表者らが参列し、敬虔な祈りを捧げた。



鎮火祭

素口にすることのない御膳に舌鼓を打ちながら、今年の豊作に感謝し延命招福を祈念し、神人和楽のひとつときを過ごした。

今年は五番座まで行われ、約三三〇人が参列し、午前十時過ぎに終了した。

謹んで新年の御祝詞を
申し上げます
平成16年 元旦

ハナダ写真館

代表 山下 隆義
〒811-3436 宗像市東郷1031
電話・FAX (0940)36-2009【代表】



福岡ダイハツ販売株式会社
取締役社長 内山 邦彦
〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目10番11号
電話(092)411-1330【代表】



福岡国際
カントリークラブ
〒811-4146 福岡県宗像市大字朝町1470-1
電話(0940)32-3544【代表】



社団法人日本自動車連盟九州本部
本部長 金子 宜嗣
〒814-0015 福岡市早良区室見5-12-27
電話(092)841-7676【代表】



玄海灘を望む風光明媚な格調高いシーサイド・コース
玄海ゴルフクラブ
〒811-3502 福岡県宗像市江口578-18
電話(0940)62-2233【代表】
FAX(0940)62-2728



新年祈願祭のご案内

元日午前零時

一番祈願祭以後随時斎行

日本書紀で「道主貴(みちぬしのみかぢ)あらゆる道に通じる最高神」と称される宗像三女神様の下で、新しい年の初めに、ご家族で、職場で御祈願をお受下さい。

〔諸祈願祭〕

〔会社・団体〕

業務安全・業務繁栄・商売繁盛・交通安全
全海上安全など

〔家庭・個人〕

家内安全・厄年祓・厄除祈願・心願成就
祈願・学業成就・試験合格祈願・初宮詣・良縁祈願

場 所：本殿 または 儀式殿
初穂料

会社・団体：一〇、〇〇〇円

家庭・個人：五、〇〇〇円

(初穂料により、授与品が変わります)



授与品：神札、又は御守御幣、供物、御神酒など

〔交通安全〕

場 所：祈願殿天駐車場前

初穂料

大型車：六、〇〇〇円

普通車：五、〇〇〇円

二輪車：三、〇〇〇円

授与品

水引守(大)、紅白御幣、供物



各種交通安全御守200円～1,000円



諸願御守300円～1,000円



干支御守500円



諸願神符1,000円



平成十六年 元旦

コカ・コーラウエストジャパン株式会社

本社

〒812-0053 福岡市東区箱崎7丁目9番66号

T E L (092)641-9115

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

縁起物

破魔矢 一、〇〇〇円

元来は「弓」と「矢」をセットにして、男児の初正月を祝った縁起物ですが、現代では「矢」のみで「魔除け」「除魔開運」として初詣の参拝者に特に人気があります。



福迎え 七〇〇円

「熊手」に「お多福」「千両箱」「天福帳」をつけたもので、「福を掻き込む」「福を迎い入れる」と言われ、商売の方が特に受けられます。



一刀彫 二、〇〇〇円

楠を素材に、その年の干支を一本のノミだけで奉製するため「一刀彫」と称します。当社は伊勢の彫師に製作を依頼し、一年がかりで二千体を奉製していたいただいております。十二支一通り揃えると願いが叶うといわれております。数に限りがありますので、お早めにお受け下さい。



新春福みくじの御案内

当大社初詣で、今年最初の運だめしとして名物になっているのが、新春「福みくじ」です。通常のおみくじに等数が記載されており、それに応じて何か景品が当たるおみくじです。御参拝帰りに引いてみて下さい。

開始時間 元旦

(開門に併せて授与開始)

期間 一月三十一日まで

(無くなり次第終了)

初穂料 一体 〇五〇〇円

特等 〓 フットスパ

一等 〓 オリジナル時給時計

二等 〓 特大 福迎え熊手

三等 〓 特大 破魔矢

四等 〓 オリジナル切手シート

五等 〓 オリジナルTシャツ

六等 〓 卓上神宝カレンダー

七等 〓 みあれ祭タオル他

八等 〓 干支石鹸

九等 〓 干支ぬいぐるみ

十等 〓 車用マジックシート他

特別賞 〓 宿泊券・食事券等



謹んで新年の御祝詞を申し上げます

玄海国定公園の中心
一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり—

玄海ホテル旅館組合

泉 館 ☎ 〇九四〇
六二一〇〇三五

魚屋 本店 ☎ 〇九四〇
六二一〇二二二

魚屋 別館 ☎ 〇九四〇
六二一〇三三五

玄海 旅館 ☎ 〇九四〇
六二一〇〇〇一

玄海口イ্যালホテル ☎ 〇九四〇
六二一〇四一一

神湊スカイホテル ☎ 〇九四〇
六二一〇三八〇〇

高嘉 旅館 ☎ 〇九四〇
六二一〇二二一

はなわらび ☎ 〇九四〇
六二一〇一五六

はま 荘 ☎ 〇九四〇
六二一〇五〇〇

松風 荘 ☎ 〇九四〇
六二一〇二二〇

みなと 荘 ☎ 〇九四〇
六二一〇二五五

国民宿舎ひびき ☎ 〇九四〇
六二一〇二八八

海 宴 ☎ 〇九四〇
六二一〇一〇〇

宗像大社辺津宮境内図



古札納所の御案内



一年間お護りいただいた古い御守・御札は、神門前の「古札納所」でお受けいたします。
 当天社では無人の納所を設置してお

りましたが、二年前より手渡しでお受けするようしております。
 お護りいただいた感謝の念を込めましてお返しいただき、新たな御守・御札をお受けいただきますよう御案内申し上げます。
 尚、古札として納所でお受けするのは左記の通りです。
 ・御守・御札
 ・縁起物(破魔矢・熊手)
 ・正月飾り(注連縄)
 ・神棚
 特に陶器・ガラス・金属製のものは、お焚き上げできませんので御遠慮下さい。
 御不明の点は、境内の各職員にお問い合わせ下さい。



節分祭の御案内

日時 二月三日(火)
 節分祭 午前10時
 豆打ち式 祭典終了後
 場所 祈願殿(大駐車場前)



画像情報企業

株式会社 ゼネラルアサヒ
 〒812-0064
 福岡市東区松町3丁目777番地
 TEL 092-611-8311

お店の販促制作サポーター
うりせつ
 www.urisetsu.com

GA
 デジタルグラフィックス研究所

kinko's

年中祭事表

一月一日	元旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十日	恵比須神社祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十日	皇霊殿遷拜式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社春季祭
四月二十九日	昭和祭
五月三日	沖・中両宮春季大祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式・夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	宗像護国神社
	戦没者慰霊祭 千灯明
九月一日	風鎮祭
九月二十三日	皇霊殿遷拜式
十月一日	海上神幸(みあれ祭)
十月一〜三日	秋季大祭(田島放生会)
十月三日	宗像護国神社秋祭
十月十七日	表千家々々元献茶祭
十月二十八日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十二日	古式祭・鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓式・除夜祭
毎月一十五日	月次祭

「玄海とらふく」ブランド化へ

宗像市鐘崎漁協・玄海観光協会が中心となり結成された流通促進協議会は、十二月十六日当天社勅使館で、地元「鐘崎港ふく船団」が山口県下関市の南風泊市場に水揚げしている天然とらふくを、独自のブランド「玄海とらふく」として全国に発信する計画を発表した。

宗像市の鐘崎漁港は、流れの速い玄界灘・東シナ海といった外海ものにとらふくの水揚量が全国でも屈指で、南風泊市場の外海もの天然とらふくの五〇％は鐘崎ふく船団が漁獲したもの。しかし、これまで下関産として大都市圏の高級料亭に引き取られて、地元のホテル・旅館では比較的安価の養殖物が中心に出されてきた。

同協議会は「地元の人や観光客に本物の味を楽しんでもらい、地域活性化の起爆剤にしたい。今後三年間を目標にブランド化し、ふく船団の漁獲はすべて『玄海とらふく』として売り出す」としている。

会見後には、「天然とらふく」「養殖とらふく」の食べ比べに、宗像市長、神島宮司、高向権宮司、プレス関係者がチャレンジしたが、判別には苦戦していた。

実際のふく船団の漁師に話しを伺うと、全体を



丸々太っているのは養殖、身がほっそりと締まっているのが天然とのこと。さばいた状態での見分けは困難、養殖の方が身に若干黒い線(血管)がでるが、素人での判別はまず無理、お店を信用するしかないとのこと。

この冬は、信用できる宗像のホテル・旅館で「玄海とらふく」を御賞味してみたいかがでしょうか。

地図を見よう! 地図を遊ぼう!



ゼンリン
地図の資料館

リバーウォーク北九州14階
北九州市小倉北区区町1-1-1
TEL (093) 592-9082

- ◆開館時間/10:00~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日/土曜・日曜、祝日、年末・年始・夏期休業日
- ◆入館料/大人(高校生以上)100円、小人(中学生以下)無料

第五〇九回 宗像大社 歌会詠草

大野展男選 毎月25日夕切



遅しき背に焼印も鮮やけき放牧の牛阿蘇野原去る
(評放牧が終りそれぞれの飼主の処に帰ってゆく牛達、阿蘇の秋の風物詩である。「遅しき背に夏の間存分に草を食へ運動をした牛の姿が見える。」)

池田 森 龍子

大島 杉田 禮子

この時化に海が変ればいくばくの漁もあるにと祈る思いす
(評「この時化に海が変れば」とは、潮の流れや水温や透明度が変り魚群の遊を期待することである。異常気象で大きくさまざました海の時化にすがのような気持の作者である。)

大井 木原 ふさ子

十本の撥にて捌く太鼓なり強弱和して一つ音となる
(評手練の人達の打つ太鼓であろう。感情を加えず太鼓の音だけをうたったのが良い。)

八幡 伊豆 統一郎

城山の深きみどりを仰ぎつつ故郷の道ゆるりと歩む
(評久々に尋ねた故郷であろう。「ゆるりと歩む」にふるさとをいとしむ気持と、多忙な日常から解放されたよろこびがある。)

津屋崎 佐々木 和彦

余分なる事は言はずにすつきりと秋晴れのごと歌に詠みたし
(評自然を詠い得ない人にはいい歌は出来ない。それは、短歌は物にして思いを述べる詩形だからである。原作「胸の思ひをを」秋晴れのごとと具体に直したが、どうだろう。)

光岡 河村 久光
窓しめし体育館まで聞えくる油蟬の声に汗わきやまず

鐘崎 安永 久子

たてつけサイレンひびくに飛び起きぬ波戸の漁船ゆ火柱の立つ

赤間ケ丘 松本 澄子

自転車に乗る少女らは風うけてセラード服のスカートふくらむ

吉留 高山 信子

髪みじかく切れば心も若返りリングを持って友たづねゆく

大島 越智 治子

慶州は新羅の都町中に王の古墳の数あるを見る
キョシユ シルラ

光岡 森田富佐子

彼の国の拉致ミサイルと騒ぎおり吾の思いの一票投ず

朝野 藤井 浩子

点滴の一滴づつが管の中落ちゆく見つつ望みを託す

東旭ケ丘 天野 玲子

腰深く折りて祈りを捧げいる姿清しも若き宮司は

田野 森 つるの

柿の葉の散りたる後の枝々に実は重く垂れ夕日に映わる

日の里 大和美由紀

秋月のどこにも水の音はして小春日和今日の心やすらぐ

福岡 香月 照子

花ひとつつろひゆくをみるわれにジングルベルもむなしくきこゆ

上八 田志紀代子

逝く秋の丘より見れば孫生の伸びしが刈田に黄葉してをり
ひなま

選者 詠

見下ろしの海美しと言ふ声すもうしばらくは遊ばなこの世

雨まじる二番木枯し去りし庭蛸も蝶も姿消したり

だい鷲とこさぎと並びやや離れ五位さぎねむる午後の刈田に

宗像大社 歌会 俳句作品集(四八四)

日の里 花田いつ枝

裏木戸や落葉の騒ぐ風の音

福岡 森 清

雲の端照らす日冴えて輝やけり

光岡 白土 凌一

友来たる久しく語る胸の内

東郷 田中 憲象

四塚に雲かゝり照る神無月

光岡 井上 嘉治

一番星立冬ネオンの海に落つ

東郷 宗風社俳句会

ダイエーの優勝パレード秋豊か

吉田 杏子

逝く秋や大河音なく流れゆく

三浦美千代

桐一葉からり晴れたる空に舞ふ

田中 雨葉

年の暮作り笑ひのピエロかな

木原 房子

夕霧に暮れゆく町や港の灯

編集後記

新年あけましておめでとございます。

旧年中はいろいろありました。世界も日本もそして当社でも、恐らく皆様にも...。こうして一年の積重ねが長い目でみて人生？なんて感じる一年でした。今年、平成十六年、皇紀二六四四年も氏子・崇敬者の皆様にとりまして良き一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。初詣参拝の皆様には気持ちよく御参拝していただきませう、職員一同心よりお待ちしております。 (M・O)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1331(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社社務所
発行所 宗像大社

定価1年送料共1,000円